

しあわせ



平成27年1月31日(土) ゆめタウン八代にて「八代市人権作品表彰式」を開催しました

本市では、市民一人ひとりの人権が尊重され、あらゆる差別のない「人権いきいきふるさとづくり」を進めるため、人権教育や啓発活動を推進しております。

しかし「人権の世紀」と言われる中で、高齢者や子どもへの虐待、障がい者や外国人への偏見など、いまだに数多くの人権問題が存在しており、また近年では、携帯電話やスマートフォンを媒体とするいじめや犯罪など、新たな人権問題も発生しています。

これらの人権問題を解決するには、人権問題を自分自身の問題としてとらえ、一人ひとりが様々な人権問題について正しく理解することが必要であり、人権教育・啓発活動を推進し、継続していくことが大切です。

本協議会におきましては、「人権セミナー」をはじめ各種講演会の開催や「人権作品の募集・展示」などの啓発活動を展開しています。

今後とも、八代地域が一体となつて、差別のない明るいまちづくりに努めてまいります。市民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。



八代市人権問題
啓発推進協議会
会長(八代市長)
中村 博生

差別のない
明るいまちづくりを
めざして

毎月11日は「人権を確かめあう日」です

家庭や地域、職場や学校で、身近な人権問題について、みなさんと話し合ひましょう！



インターネットによる人権侵害

近年、携帯電話、スマートフォン、タブレット等の普及により、私たちの日常生活の中で、インターネットは常に関わっている環境となっています。

日本のインターネットの利用人口は年々増加し、平成25年末には約1億44万人となっています。こうしたインターネットの普及に伴い、その匿名性、情報発信の容易さから、個人の名誉を侵害したり、差別を助長する表現等、人権に関わる様々な問題が発生しています。

また、インターネットによる人権侵害は、短い文章を投稿したり、友人同士がメッセージや写真などを共有してコミュニケーションを取ったりするLINE（ライン）やFacebook（フェイスブック）などのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及により、大人だけでなく子どもたちにも大きな影響を与えています。

近年では、SNSに起因したいじめや犯罪が発生しており、インターネットの利便性だけでなく、リスクについても十分な理解が必要です。



例えば、SNSでは、なりすまして（偽のアカウントや架空のアカウントを利用）悪用されたり、友人間のコミュニケーションを目的としてSNSを利用しているものであっても、プライバシーの設定が不十分であったり、友人から引用されることなどにより、書きこんだ情報が思わぬ形で拡散する事例が発生しています。

また、長時間にわたってやり続けるなど、日常生活に支障をきたすまでになってきているネット依存も問題となっています。

以上のように様々な問題が発生してきており、使用する人がインターネットの危険性を十分理解して扱う必要があります。

インターネット利用の基本的な対策として、以下のようなものがあります。

- ネットに接続する機器のソフト（メールソフト、WEBブラウザ等）は常に最新（修正プログラムを更新する）の状態にする。ウイルス対策ソフトを導入した場合には、ウイルス検知用データを常に最新の状態にしておく。
- 子どもが利用する携帯電話、スマートフォン等のネットに接続できる機器は、
 1. 必要のない携帯電話やスマートフォンを子どもに持たせない。
 2. 学校へは原則持たせない。
 3. 契約時には親子で使用のルールを作り、有害サイトの閲覧を制限する「フィルタリングサービス」を受ける。
 4. 午後9時以降の使用は原則禁止または親が預かる。

八代市人権啓発センターからのお知らせ

誰もが自分らしく心豊かに生きられる社会をめざし、一人ひとりが人権について学習し理解を深め、豊かな人権感覚を身につけ、人権問題を解決するために積極的に行動していくことが大切です。

八代市人権啓発センター（人権政策課）では、地域や職場における研修・学習などに活用いただくため、人権啓発ビデオ（DVD）や各種資料の貸出・配布、講演会等の開催を行っています。また、研修会や学習会で講師派遣・紹介も行っています。ぜひ活用ください。



【お問い合わせ】 八代市人権啓発センター（人権政策課） ☎30-1711

部落差別をはじめすべての差別をなくす

人権 子ども集会・フェスティバル in やつしろ

子どもから大人まで、さまざまな人々との交流をとおり、お互いの人権を尊重し、差別のない人権のまちづくりをめざし、平成26年11月29日(土)八代市総合体育館にて開催されました。

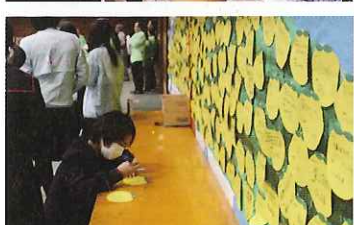
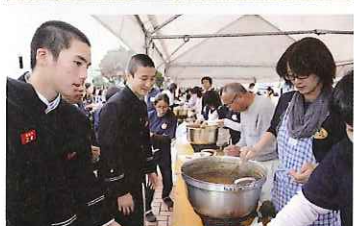
本年度は、「すべての差別 しない させない 許さない ～ひとりじゃない 仲間がいる～」をテーマに、八代地域の園児・児童・生徒・一般の皆さん約1,800名の参加がありました。

ステージの部では、市内幼稚園や学校・団体から、ミュージカルや歌・踊り・バンド演奏など様々な発表が行われました。

展示コーナーでは、発表者の思いが込められた人権作品や各団体の活動紹介の展示がありました。また、屋外では、さまざまな食品・物品のバザーと体験コーナーが設置され、人と人との交流の場となっていました。

最後には、児童生徒実行委員会のメンバーを中心に人権文化の輪を広げようと「ちなもい音頭」を参加者一体となって踊り、集会アピールがありました。

また、人権パレードでは、「人権を守ろう」「いじめをなくそう」など、それぞれの思いやメッセージを伝え、一緒に差別やいじめをなくすことを確認しました。



集会アピール文

わたしは、ひとりぼっちで孤独だと思ったことがありました。大切な友だちといさかいをおこし、不登校になったときです。「なぜあんなことを言ったんだろう」と、うつむいて、変わりたいのに変われない自分を、「嫌いだ! いやだ!」と思っていました。

そんなわたしを助けてくれた人がいました。そばに寄り添い、「君は無理に変わらなくてもいいんだよ」「ひとと自分を比べてなくてもいいんだよ」と、支えてくれた人もいました。

たとえ、だれかに傷つけられ、否定されても、あなたの思いを言葉に変えて、解き放ってみましょう。

わたしたちは、おたがいの人権を見つめ、学び合い、すべての差別をなくすことをめざし、このフェスティバルに参加しています。

今日、いま一度、自分自身のところを見つめ直してみましょう。「自分は、すべての差別をなくそうという強い気持ちを持っているだろうか」、「自分は、いじめや差別をする側に立っていないだろうか」と。

この「人権子ども集会 フェスティバル in やつしろ」は、八代地域のみなさんに、「人権の大切さ」をみつめてもらうだけでなく、わたしたち自身のところを見つめ直す機会にしたいものです。

わたしたち一人ひとりが手をつなぎ、もっと人権や差別の現実を知り、学び、考え、八代地域のみなさんといっしょにこころを動かし、人権いきいきふささどづくりに向けて、行動していきましょう。

2014(平成26)年11月29日

部落差別をはじめすべての差別をなくす
八代地域児童生徒実行委員会



八代市人権作品表彰式

人権教育・啓発事業の一環として、毎年人権作品の募集を行っています。

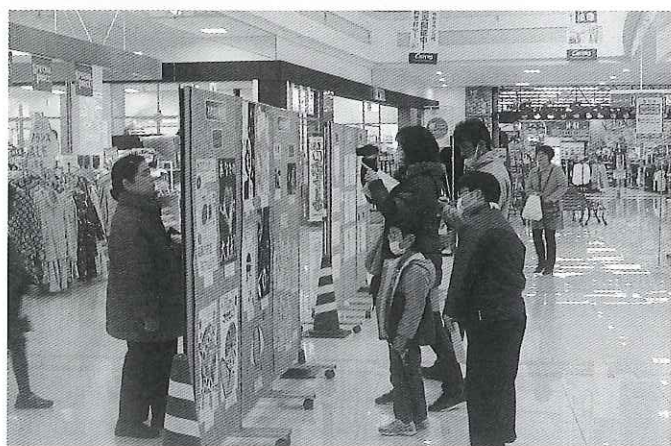
平成26年度は、人権啓発に関するポスターや作文、習字、標語など、約2,800点を超える応募をいただきました。

平成27年1月31日(土) ゆめタウン八代にて、優秀作品46点の表彰と人権作文の発表を行い、同会場にて人権作品展を開催しました。

なお、応募いただいた作品の一部について、本誌に掲載しています。



八代工業高等学校定時制1年
高山 晨時さんに人権作文を
発表していただきました。



人権作品展では、身近な人権について考えることが出来る作品展となりました。

八代市人権作品

皆さんから応募いただいた
作品の中から一部をご紹介します。

標語の部

★ 小学校の部

いじめだめ みんなでたのしく あそぼうね

八代小学校 1年 丸山 貴市

えがおはね みんながもってる たからもの

植柳小学校 2年 松永 和花

きつとある みんなそれぞれ いいところ

有佐小学校 3年 古田 皓汰朗

だいじようぶ? 言える勇氣と 思いやり

松高小学校 4年 村田 健人

やめようね 見て見ぬふりと 知らんふり

龍峯小学校 5年 坂井 智香

そだてよう 人の心を 知る心

宮地小学校 6年 内野 美癒

★ 中学校の部

強いのは いじめる君より 止める君

第二中学校 1年 皆吉 隼人

人に優しくしてごらん 違う自分に 気づくから

第七中学校 2年 谷川 真希

人権は 人の未来を 守るもの

鏡中学校 3年 小林 海渡

★ 高校の部

つらいとき 心に響く 友の声

八代東高等学校 1年 平野 柊太

★ 一般の部

限りある 命も物も 大切に!

稲田 栄子

詩の部

小さな出来事

第七中学校 1年

高濱 礼実

私は女子で一番背が低い
ずっと、チビ! チビって
言われ続けてきた
でもね ある日
図書委員だった私は
本を片付けていた
でも本棚に手がとどかな
かったんだ
その時 背の高い君は
本を片付けてくれたよね
もう君は忘れていると思う
けど
私はねその時
ちっぽけな私を目立たない
私を見てくれている人がい
たんだって思ったんだよ
それは ほんの小さなこと
だけど
私はすごくすくすくうれし
かったんだ
すくすく「幸せ」だな
あって思ったんだ

ぼくの友だち

八千把小学校 2年

荒川 悠人

プツと、わらいたくなる友だち
いつしよにおにごっこして
ウキウキする友だち
まけてくやしいとき
「がんばつたね。」
と、こえをかけてくれる友だち
ケンカのと、なかなかおりし
て、ホツとなる友だち
はずかしがりやの友だち
なっているよ、
「だいじようぶ。」
と、はげましてくれる友だち
たのしく
あそんでくれる友だち
おしえてくれる
やさしい友だち
すこしだけ、強がりな友だち
たすけてくれる
ポカポカな友だち
だれとでもなかよくできる、
おもしろい友だち
そうだんにのつてくれる友だち
いつもえがお、
ほんわか友だち
たまには、ちよびりいじわる
な友だち
いろんな友だちがいる
ぼくは、みんなのえがおが大
すき
みんな、そのままいてほし
いな

命の終始

八代工業高等学校
定時制 3年

山本 智史

その命が生まれる確率は何
パーセントだろう。いくつもの
枝分かれした可能性の中、た
だ一つの選択肢。その答えは
唯一無二。
その命が終わる可能性は何
パーセントだろう。答えは百
パーセント。しかし、その結果
を人が選択し、解答すること
の愚かさ。
自分の命を選択してはいけな
い。あなたが選んだ答えで悲
しむ人がいる。怒る人もいる。
そして、これを許容できるな
ら、答は一つに絞れるだろう。
他人の命を選択してはいけな
い。どんな過去があつたにせ
よ、どんな未来を想像するに
せよ、よく考えれば答えは一
つになるはずだから。
命の始まりと終わりを決める
のは何ものだろう。それは分か
らない。しかし、命の過程をき
めるは一人ひとりの人間。その
意味をいつまでも憶えておこ
う。なぜなら、その中にこそ命
はうまれるものだから。

グループ作品



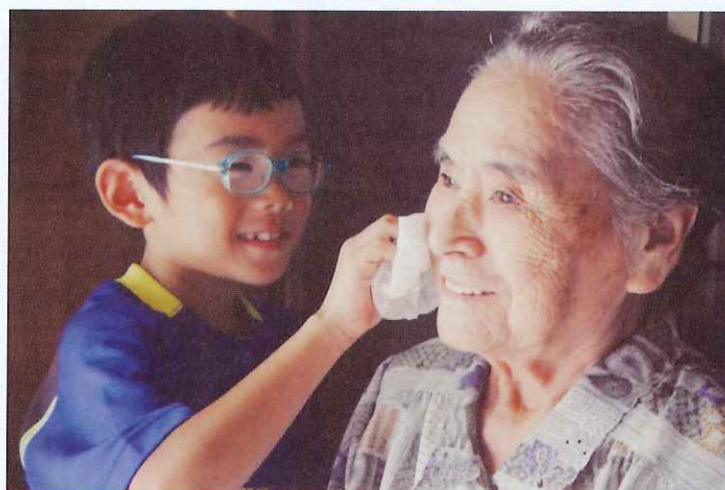
松高小学校1年5組のみなさん



八代支援学校小学部5・6年のみなさん



日奈久小学校5年1組のみなさん



東陽中学校2年
とくだ 徳田 直駿 なおとし

写真の部

書道の部

八代小五年木下恵太
親友

八代小学校5年
きのした けいた
木下 恵太

太田三小四年はまたもえ
命

太田郷小学校4年
はまた もえ
濱田 萌依

二年
おなが
豊田悠生

高田小学校2年
とよだ ゆうせい
豊田 悠生

やちねんいわ下よう
まなか

八千把小学校1年
いわした よう
岩下 謡

八代東一年
人権啓発
荒木裕佳

八代東高校1年 荒木 裕佳

泉一年橋口尚平
友愛

泉中学校1年 橋口 尚平

昭和小学六年
人権
山住奈摘

昭和小学6年 山住 奈摘

八代高二年
人権尊重
清水佳鈴

八代高校2年
しみず かりん
清水 佳鈴

八代二中三年
人権の尊重
浦田渚沙

第二中学校3年
うらた なぎさ
浦田 渚沙

八代一中二年
親愛なる友
瀬崎華芳

第一中学校2年
せざき はるか
瀬崎 華芳

竜峰三年
ともだち
竹中美月

龍峯小学校3年
たけなか みづき
竹中 美月



わくだ あやね
松高小学校6年 和久田 彩音



きのした ことみ
千丁小学校1年 木下 琴心

ポスターの部



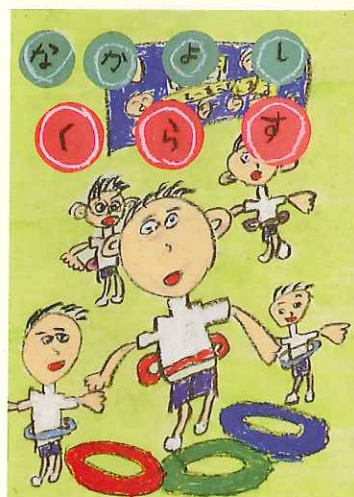
ふじた ののは
龍峯小学校5年 藤田 野乃葉



つだか なるみ
二見中学校1年 津高 成美



ながもり るか
龍峯小学校4年 長森 流楓



なかもと だいと
龍峯小学校2年 中本 大翔



たにぐち しんいち
一般 谷口 慎一



さかえた たいちろう
太田郷小学校3年 榮田 大一郎



か が あすか
第三中学校2年 加賀 明香



いぬおき ゆか
第三中学校3年 犬置 友香